

有志竟成

(平成27年度始業式校長挨拶)

今日から新学年、新学期が始まります。この始業式にあたり、皆さんに2つのことをお話しします。

1つ目は、『有志竟成』ということです。

日本の4月は、全てが新たに始まる月、スタートの月となります。

このことから、4月は決意の時、再生の時といわれています。すなわち、4月は思いを新たにし、決意を持って動き始めるときです。

誰もが4月になればきっと、その思いを持つものと思います。

志を持つということです。

ところで決意すれば、志を持てば、もうそれで成功か、というもちろんそうではありません。次に必要なのは継続する心です。

宮沢賢治の「告別」という詩の中に、継続がどんなに難しいことなのかをうたった部分があります。

『…それらのひとのどの人もまたどのひとも…自分でなくすのだ
すべての才や力や材といふものはひとにとどまるものではない
(ひとさへひとのとどまらぬ) 』

志をもって努力し続けるならばきっと成るということ、それが有志竟成(志ある者は事ついに成る)ということです。

4月の始業式にあたり、決意を持ってほしいこと。それを継続すること。そうすることによって人は大事を成し得る、成長するということをお話ししました。

2つ目は、学びの姿勢についてです。

皆さんは三平方に定理をご存じと思います。

最も有名なのは $3^2+4^2=5^2$ でしょう。これは今から2500年前のピタゴラスが発見したと言われていますが、実は3000年前にもう知られていたようです。つまり、3000年も前から人間はこれを見てきたということですが、もちろんあなた達も見ています。問題はその後です。それを見てどう思ったか、何をしたかです。

「他にもあるのか。無数にあるのか。すべてを求める公式はあるのか。

2乗ではなく3乗だったら、逆にみて平方和にできる条件は、などなど」

この2つ目「学びの姿勢」は、「探究心」あるいは「課題解決能力」といってもよいと思います。

これは、学んだらその先はどうなっているのか。こうしたらどうなるのだろう。学んだらそこで終わらないで、その先を考えてみてほしいということです。

ここまで歩いてきたんだから、もうちょっとだけ歩いてみよう、あの角を曲がったらどんな素敵な景色が待っているのだろう、そういったことを、勉強でもしてほしいのです。知的好奇心あるいは自発的な学習姿勢、探究心を持ってほしいということです。こうした姿勢が、有ると無いとでは理解も定着も全然違います。今後、世の中で必要とされている力でもありますので、意識して探究活動を行うようにしてみてください。

始業式にあたり、皆さんに2つのことをお話ししました。4月は決意のとき、その決意をいつまでも失うことなく、この一年頑張ってくれることを切に願っています。

(完)